

旭川市医師会 女性医師部会 研修会

旭川市医師会女性医師部会

部会長 長谷部 千登美

2024年1月22日に、2023年度の女性医師部会研修会として、HPVワクチン接種推進をテーマとした研修会「HPVワクチン接種拡大に向けて～本学の取り組み、そして、次へ～」がアートホテル旭川で開催されました。ご講演をいただいたのは、旭川医科大学産婦人科学講座教授の加藤育民先生です。

HPVワクチンは日本では、2009年に承認され接種が開始されていましたが、接種後に多彩な症状が報告されたことから積極的な接種勧奨が差し控えられていました。しかし、報告された多彩な症状とワクチン接種との因果関係は証明されず、2022年4月に積極的勧奨が再開されています。このために定期接種を逃した年代の女性を対象に、無料期間を延長する「キャッチアップ接種」が行われていますが、接種が必要なすべての方に浸透していないという現実があります。無料でキャッチアップ接種を受けられる期間が2025年3月までとなっていますが、ワクチン接種は初回・2か月後・6か月後の3回筋注となりますので、2024年9月までに接種を開始しなければ無料期間を過ぎてしまうということになり、接種勧奨は喫緊の課題となります。

そこで、旭川市医師会の会員の皆さんに、専門とする診療科にかかわらずこのHPVワクチン接種を積極的に広めていただきたいということで、今回の研修会を企画することになりました。多くの会員に見ていただきたいと考え、ご講演は旭川市医師会のホームページから視聴できるようになっています。

今回の講演は、以下の5つのテーマでお話が進みました。

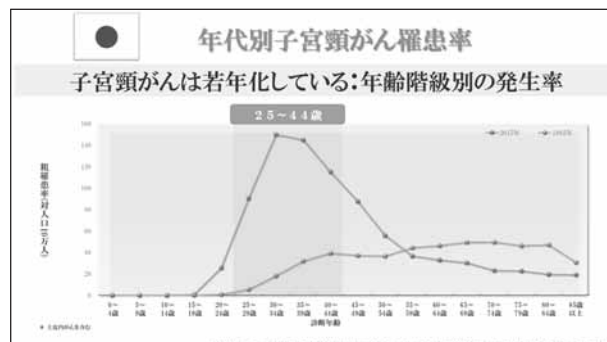
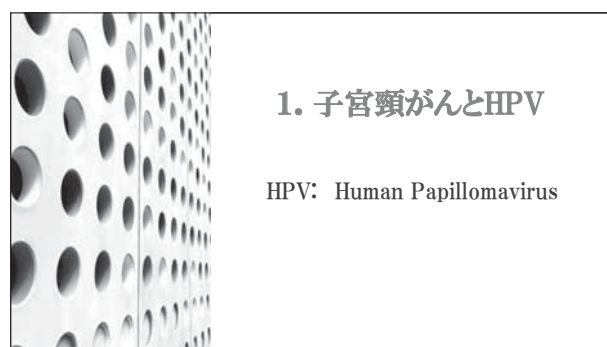
1. 子宮頸がん と HPV (ヒトパピローマウイルス)
2. HPVワクチン接種の勧奨再開とキャッチアップ
3. HPVワクチン接種拡大に向けての足掛かり
～コロナワクチン接種から学ぶ～
4. HPVワクチン接種数拡大に向けた本学の取り組み
5. 全国における HPV ワクチン接種拡大に向けて

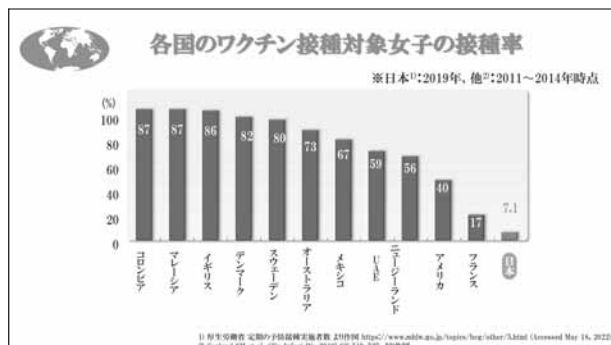
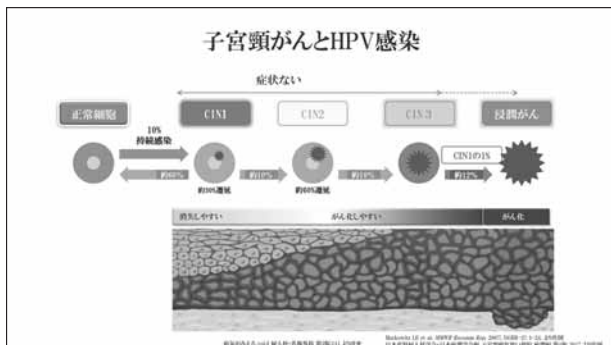
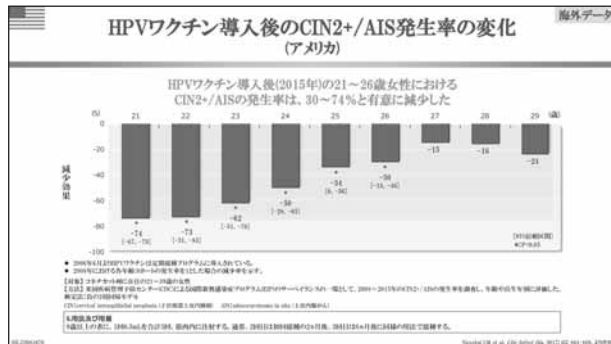
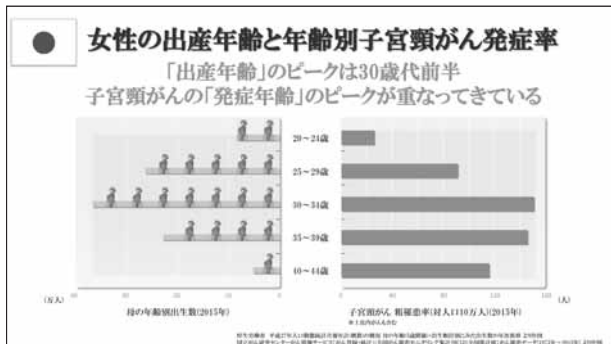
それぞれのパートの主なスライドを以下に掲載しますが、ぜひ動画全体を視聴いただき、HPVワクチン接種拡大に向けて、会員それぞれのお立場で、ご協力いただきたいと思います。



講演の内容

1. 子宮頸がん と HPV (ヒトパピローマウイルス)
2. HPVワクチン接種の勧奨再開とキャッチアップ
3. HPVワクチン接種拡大に向けての足掛かり
～コロナワクチン接種から学ぶ～
4. HPVワクチン接種数拡大に向けた本学の取り組み
5. 全国における HPV ワクチン接種拡大に向けて





HPVワクチン

	サーバリックス 2価ワクチン	ガーダシル 4価ワクチン	シルガード 9価ワクチン
対象	10歳以上 【定期接種】小6～高1 女性	9歳以上 男女 【定期接種】小6～高1 女性	9歳以上の女性
費用	自己負担15万円～ 定期接種：公費	自己負担15万円～ 定期接種：公費	自己負担18万～ 定期接種：本年4月以降～
接種方法 (筋肉注射)			
効果	HPV16型と18型を防ぐ (子宮頸がん関連の50～70%)	HPV6型、11型、16型、18型を防ぐ (子宮頸がん関連の50～70%)	6、11、16、18、31、33、45、52及 255型 (子宮頸がん関連の約90%)

ワクチン接種ストレス関連反応 (ISRR) (WHO, 2019)

Immunization stress-related response: a manual for program managers and health professionals to prevent, identify and respond to stress-related responses following immunization
20 December 2019 | Manual
<https://www.who.int/publications/i/item/978-92-4-151594-8>

- ✓ ワクチン接種ストレス関連反応 (ISRR: Immunization stress-related response) を提唱。
- ✓ 接種前・接種時・接種直後に見られる「急性反応」
- … 脈脈・息切れ・口喝・手足のしびれや、めまい・過換気・失神等
- ✓ 接種後の「遅発性反応」
- … 脱力・麻痺・異常な動き・不規則な歩行、言語障害等の解離性神経症状の反応などが含まれる。

各国のHPVワクチン接種プログラム (2023年4月時点)

Updated

	オーストラリア	アメリカ	カナダ	フランス	イギリス	ドイツ	日本
現在の対象ワクチン	9価	9価	女子:2価/4価/9価 男子:4価/9価 (2019年以降のみ)	2価/9価 (9歳未満は2価)	4価→9価 (9歳未満は2価/4価) (2019年以降のみ)	2価/9価	2価/4価/9価
接種プログラム開始年	2007年 (2014年以降のみ)	2008年 (2017年以降のみ)	2007年～ 年齢別接種のみ (2019年以降のみ)	2007年	2008年	2007年	2013年 (2018～2020) 9歳未満
実施法	学校接種	医療機関での接種	学校接種	医療機関での接種	学校接種	医療機関での接種	医療機関での接種
定期接種 コホート	12～14歳男女 年齢別接種のみ	11～12歳男女	9～13歳男女 年齢別接種のみ	11～14歳男女 (男子2019年)	12～14歳男女 (男子2019年)	9～14歳男女 (男子2019年)	12～16歳女子
カバー率 ¹⁾ (完全率)	女子:81.81% 男子:78.81%	女子:81.4% 男子:78.0%	女子:87% 男子:77%	女子:107.4% 男子:77.3%	女子:82.8% 男子:77.3%	女子:73.1% 男子:73.1%	女子:11% 男子:74%
キャッチアップ コホート	～25歳男女 ※1歳～3歳接種	～26歳男女 ※1歳～3歳接種	～18歳男女 ※2歳接種後の 年齢別接種	～18歳男女 (9歳未満) ※2歳接種後 (男子2021年)	～17歳男女 ※2歳接種後 (男子2021年)	～17歳男女 (9歳未満)	1987～2007年 出生 ※2023年10月28日 以降の出生

1) 12歳以上の接種率調査結果 https://www.mhlw.go.jp/topics/press/2023/03/20230314_01.html (Accessed Mar 14, 2023)
2) 日本以外の国は、WHO Immunization coverage (HPV) <https://www.who.int/data/datasets/immunization/coverage> (Accessed Mar 14, 2023) データを参照。

1) 12歳以上の接種率調査結果 https://www.mhlw.go.jp/topics/press/2023/03/20230314_01.html (Accessed Mar 14, 2023)
2) 日本以外の国は、WHO Immunization coverage (HPV) <https://www.who.int/data/datasets/immunization/coverage> (Accessed Mar 14, 2023) データを参照。

HPVワクチン接種後の重篤な副作用疑いの転帰

	接種人数に 対する割合	発症日・転帰等の 把握できた 人数に対する割合		
予防接種人数	約3,380,000人	100.00%		
副作用疑い報告のあった全人数	2,584人	0.08%		
うち発症日・転帰等の把握できた人数	1,739人	0.05%	100.00%	
死亡症例*	3人	0.00%	0.2%	
内訳	回復した/軽快・通院不要	1,550人	0.05%	89.1%
回復せず	186人	0.005%	10.7%	

※ 3件の死亡症例の死因内訳は、①自殺、②心室細拍及び③昏倒とされており、いずれもワクチンの安全性への懸念となるものではないとされている。
【参考】死亡症例の報告日 ①平成25年5月16日、②平成25年9月12日、③平成25年10月28日
1) 2017年7月7日 第1回厚生労働省薬事審議会予防接種・ワクチン分科会副反応対策部会 資料1-1

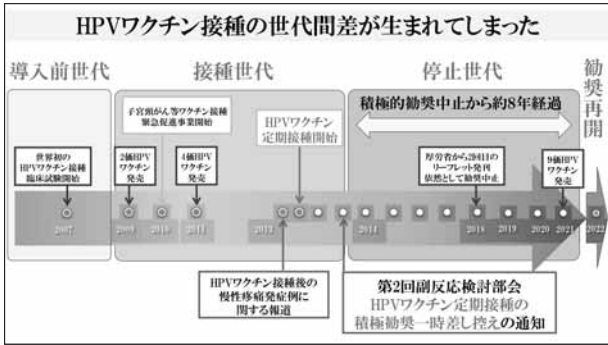


ヒントは、コロナワクチンの若年者への接種拡大への対策

若年層向けの接種率の向上を、どう進めていくのかが、今後のHPVワクチン接種の課題になっている。

コロナワクチン接種の「優秀国」と言われた国々では、地域や属性による接種率の差が課題となっています。特に若者世代の間では、コロナ回復に向けた兆しが見えたことや、副反応に対する懸念から、接種率が伸び悩み、未接種者の中で新たに感染を招くなどの影響を及ぼしている。

国内においてもコロナワクチン忌避者の割合は、男女ともに15～39歳の世代が最も多く、副反応についての不安な声が挙がる。
(2021年2月：国立精神・神経医療研究センター大規模調査)



円滑な接種体制・予約体制

団体名	対策案	内容
京都市	事前登録システムを使った接種日時の指定	必ず接種できる安心感を持ってもらうため、接種希望者からのポータルサイトへの登録を受け付け、登録後に接種日時・場所を指定。
岡山県	「岡山県共通予約システム」の導入	県民であれば県内すべての医療機関で個別接種を受けることができる全県共同体制を構築。県内に住民登録があれば、他市町村の医療機関を含め、2回分の接種を一度に予約できる「岡山県共通予約システム」を導入。
新潟県三条市	集団・個別接種予約一括受付当日キャンセル時の対応	集団接種と個別接種両方の予約受付を市が一括して行い、1回目と2回目の接種日時をセットで受付することで、医療機関や市民の負担を軽減。
大阪市	外国人留学生・就労者を受け入れる教育機関・事業者による接種券の申請	外国人留学生・就労者による接種券発行手続きの負担軽減及び迅速な接種を図るため、受け入れ教育機関・事業者などが、外国人留学生・就労者に代わって市のオンライン申請システムから接種券を一括申請できるようにするとともに市から同教育機関・事業者などへ接種券を一括送付できる体制を整備。

キャッチアップ接種の意味

4価HPVワクチンの予防効果(15～26歳)
<FUTURE II 主要解析結果>
HPV未感染・プロトコル遵守群(PPE)における評価

評価項目	4価HPVワクチン群 N=6,082		プラセボ群 N=6,075		予防効果 (%)	95% 信頼区間
	n	発生例数	n	発生例数		
HPV16、18型関連疾患						
CIN2/3、AIS、子宮頸癌	5,306	2	5,262	63	96.9	(88.2, 99.6)

N=各接種群に無作為に割り付けられ、1回以上接種を行った被験者数
n=当該集団に対して7ヵ月以降に1回以上の来院を行った被験者数
PPE: Per-Protocol Effects) 解析対象集団: 1年以内に4価HPVワクチンの3回接種をすべて受け、プロトコルから大きな逸脱がなく、評価項目に関連するHPVの型に対して初回接種前からの3ヵ月(7ヵ月)まで未感染であり、かつ初回接種前に血清抗体反応陰性であった被験者集団

FUTURE II Study Grp. J Infect Dis. 2007;196(10):1438-1446.



接種機会を逃した方に対するキャッチアップ接種開始(3年間)

対象者: H9年度生まれ～H17年度生まれの9学年

残り1年 3ヶ月	H9生	H10生	H11生	H12生	H13生	H14生	H15生	H16生	H17生	H18生	H19生
R4	25歳	24歳	23歳	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳
R5	26歳	25歳	24歳	23歳	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳
R6	27歳	26歳	25歳	24歳	23歳	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳

- 【定期接種年齢の接種拡大のため：当科の対策】
- ワクチン接種の特殊外来を設置
火曜日の午後外来開設
 - 外来待合室にTVモニターを設置
子宮頸がんワクチンや子宮頸がんに関する動画を放映(外来時間に、常時放映)
 - 高校での性教育講演での講話、保健所・がんセンターとの連携強化
子宮頸がんワクチンや子宮頸がんに関心をもっていただく



旭川医科大学のHPVワクチン接種状況(集団)

【第1回目接種】
2022.8.22 32名(学生24名、職員8名)
2022.8.24 24名(学生10名、職員14名) 計56名
(副反応:1名)
8/24に接種を受けた学生が、待機時間中に動悸、めまい、気が遠くなるなどの症状を訴え30分間外来診察室で臥床して経過観察を行った。血圧やSpO2の低下を認めず、症状もすぐに消失し帰宅した。

【第2回目接種】
2022.9.30 37名(学生24名、職員13名)
2022.10.5 16名(学生7名、職員9名) 計53名

【第3回目接種】
2023.1.27 33名(学生22名、職員11名)
2023.1.30 17名(学生7名、職員10名) 計50名

接種終了後から現在まで、副反応を疑う症状で受診した症例はなかった

令和5年度の本学活動

HPVワクチンwebセミナー
開催日 2023年6月11日
質問フォーム(6/20締め切り)

【HPVワクチン Q&A】
「子宮頸がん予防ワクチン」に関する質問に、保健師がわかりやすく回答しています。
※「子宮頸がん予防ワクチン」に関する質問は、こちらからお問い合わせください。

子宮頸がんに対する HPV ワクチン うつあうたい？
子宮頸がんは、早期発見・早期治療により、ほぼ100%の確率で治癒が可能です。
子宮頸がんは、早期発見・早期治療により、ほぼ100%の確率で治癒が可能です。

- アンケート調査
本年度希望者:60名程度
- 今年度の接種予定決定
- セミナー(6月21日)・研修会(7月4日)開催
- 旭川市、教育委員会・医師会への連携強化活動
- 旭川医科大学を「協力医療機関」申請

第1回目大学集団接種 7月10日、12日施行(50名)
第2回目大学集団接種 8月31日、9月1日施行(42名)

地域におけるHPVワクチン接種にかかる診療・相談体制の強化 (厚生労働省)

HPVワクチン接種後に気になる症状が生じた際は、まずは接種を行った医師またはかかりつけの医師にご相談し、受診をご検討ください。

協力医療機関(北海道)

- 札幌医科大学附属病院(ペリネーション科)
- 北海道大学病院(HPVワクチン相談支援センター)
- 市立洞爺総合病院(産婦人科)
- 洞爺ろくろ堂病院(内科)
- 旭川医科大学病院(産婦人科)
- 函館中央病院(産婦人科)

厚生労働省 2023年12月21日 「子宮頸がん予防ワクチン接種に関する相談体制の強化について」の通知(厚生労働省医務局発) 資料1について(複製権は本通知の作成者(厚生労働省)にあります) https://www.mhlw.go.jp/content/00011154.pdf (Updated Jan. 11, 2023)

小括: 旭川医科大学のHPVワクチン接種拡大対策

対象者が接種可能な医療機関に赴き、接種することもよいかとの意見もありましたが、学業や医療業務で平日に時間を見つけることは、非常に難しいものと推察した。

対象者がどのような意見・考えがあるのかを確認するために、アンケート調査を施行。

本学病院では、火曜日午後HPVワクチンの接種する特別枠もあるが、接種する機会を増やすために、コロナワクチン接種で導入した(集団接種)方法を取り入れることにした。

大学での集団接種には、様々な困難(山)がありましたが、少しでも多くの女性が接種いただくためにも、身近からの接種拡大が必要と感じて当科全員で対応しました。

今年度以降も、キャッチアップ希望者がいるものと考え対応予定である。

教育の重要性

子宮頸がん・ワクチンを知る

がん教育

- 教材内容に含める
- 非常勤講師の活用

性教育

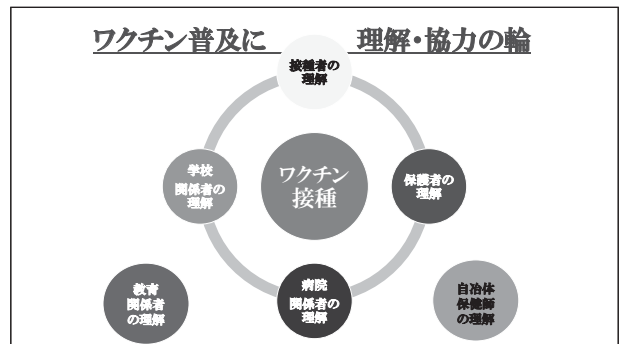
- 性感感染症分野として
- 非常勤講師の活用

5. 全国におけるHPVワクチン接種拡大に向けて

- ### HPVワクチン接種率向上に役立つ施策
- 1) 接種状況に関して、整理・把握する
 - 2) 若い方の接種率向上に向けてターゲットを絞る
 - 3) 副反応に対応できる整備を十分に準備する
 - 4) HPVワクチンに関する情報発信を継続する(特に、有効性と副反応に関して)
 - 5) 接種しやすい環境(場所・時間)を準備する
 - 6) 予防医療のため、診察室を超えた活動を積極におこなう。

HPVワクチン接種拡大に必要なこと

- 接種環境の整備
 - 接種場所・時間の確保
 - 予約システム
 - 事務手続きの簡素化
 - 接種履歴の管理
- 医療関係者 自治体との連携強化
 - 産婦人科以外の医療者の理解向上
 - 自治体の理解 事務手続きの確認
- 接種状況の把握
- 正確な情報提供・発信
 - ワクチンの効果
 - ワクチンの副反応
 - ワクチンの接種方法
- リーフレット配布・国・学会からの発信
 - 講演会・がん教育・性教育等での発信



HPVワクチンに関する情報提供(リーフレット)

第69回副反応検討部会(2021年10月)「最新のエビデンス等を踏まえたリーフレットの改訂が必要」
2021年11月12日現在、情報提供資料が改訂予定であることが発表されている。

小学4年～高校1年相当の女の子と保護者の方へ(申込)

リーフレット(複製)

電話:0114-222282

小学4年～高校1年相当の女の子と保護者の方へ(申込)

リーフレット(詳細)

電話:0114-222282

HPVワクチンを受けたお子様と保護者の方へ

リーフレット(受けた後)

電話:0114-229483

医療従事者の方へ

HPVワクチンの接種に当たって

リーフレット(医療従事者)

電話:0114-229483

- ### まとめ
- ◆ HPVワクチンとがん検診によって、子宮頸がんは排除でき、世界では既に証明されている。
 - ◆ 日本でも、HPVワクチン接種の勧奨が8年ぶりに再開された。
 - ◆ 2022年4月からは、HPVワクチンを接種し損ねた女性(17-25歳)にも無料でHPVワクチン接種ができるようになり、接種率向上が望まれる
 - ◆ 私共の活動は、非常に小さなものかもしれませんが、様々な方策を地道に取り入れることが、このワクチンの普及に大切と考えております。
 - ◆ 旭川市周辺においても、キャッチアップ対象者が多数いると思います。子宮頸がん検診者数およびHPVワクチン接種者数を増やしましょう！